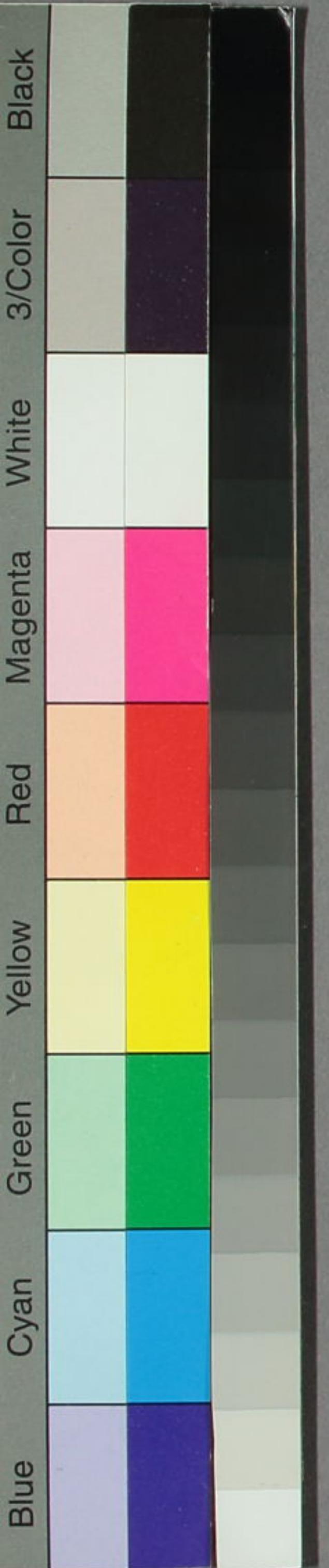


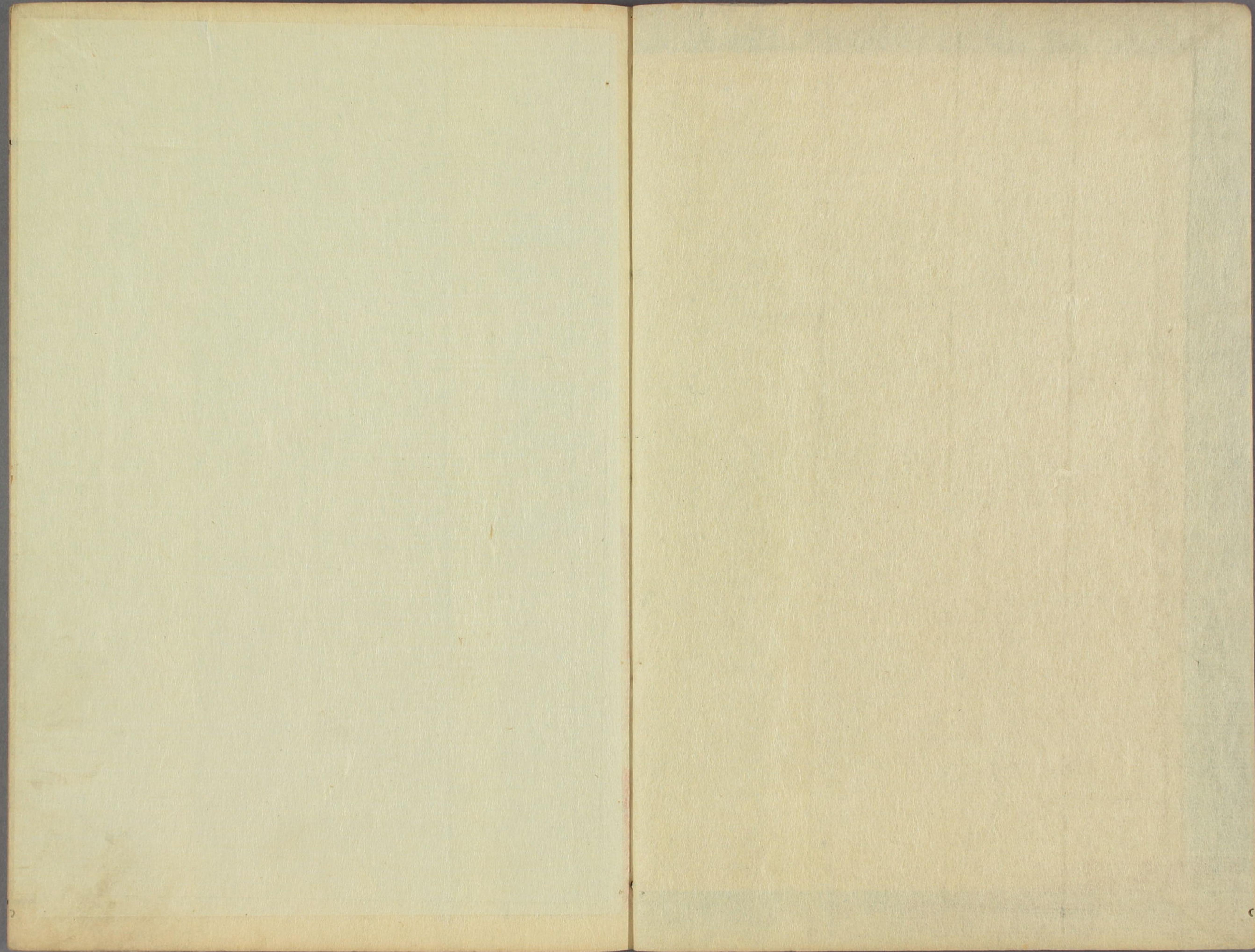
9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9

リ 5
9177
4

古事記傳

四





門號
9177
卷4

古事記傳四之卷

神代ニ之卷

本居宣長謹撰

葛城眞純所持本

昭和27年5月6日
今田千代氏
贈

於是天神諸命以詔伊邪那岐
命伊邪那美命二柱神修理固
成是多陀用幣流之國。賜天沼
矛而言依賜也。故二柱神立
立訓

云多志天浮橋而指下其沼矛以

カキタヘバレホコヲコヲコニ
云多志天浮橋而指下其沼矛以

畫者鹽許袁呂許袁呂邇此七

サキヨリシタバルレホツモリテシトナルコレオ
畫者鹽許袁呂許袁呂邇此七

音畫鳴訓鳴云而引上時自其

ノゴロシナリテヒキアゲタフトキニソノホコノ
音畫鳴訓鳴云而引上時自其

矛末垂落之鹽累積成嶋是淤

テヒキアゲタフトキニソノホコノ
矛末垂落之鹽累積成嶋是淤

能碁呂鳴自淤以下

ノゴロシナリテヒキアゲタフトキニソノホコノ
能碁呂鳴自淤以下

天神諸天神ハ初段み見えある五柱天神あり。下少至事少も。高御産巢日神之命以云てゆふるを。此より乃みハ彼大神を分三ハ舉矣。かく天神諸也。元てを举ある淨也。所詮ハ五柱をあがめて申せる。又て天神以ゆふる。諸也。諸也ハ五柱をあがめて申せる。又て天神ふ属する言なり。天石屋の段ふ八百万神諸咲中。卷倭建命の段よ。后等及御子等諸下到而云て孝謙紀。皇大后の宣命ふ。汝多知諸者吾近姪奈利。稱德紀乃宣命ふ天下能人民諸乎愍賜云てなむ。是等也。同ド例みて古語の用。ざす。又諸也。バウリも云ふ。云多し。万葉廿卷かも。母呂母呂波佐祁久等麻乎須。あ。藥師寺佛足石歌小都止米毛呂毛呂。あ。是あり。此諸

迦多用能訓るは。此ハ真字伊勢物語
諸之人皆見え。又漢書あるも然訓あり。其ハ誰
指て云ゆゑ。迦多用能人皆ハ訓るあれ。他乃人
あるを辨べ。諸字をバ丸く然訓ハ妄あり。又是を舊印
本ある。元々集と云ふのあ引よる。是を舊印寫
誤也。○命以命ハ御言なり。式の祝詞。天津神能御
言以豆更量給豆云。なべ例以て知。即命字
是を神の御名。小某命。申次命の意。小見るハ誤也
豆。以ハ母知豆。訓。其由ハ初卷の訓法條。云
直。小美許。登母。知豆。訓。豆。加乃式。乃例。生と彼
訓法。乃。豆。豆。小引。兄。也。も。豆。の例。を。豆。知。豆。
まし。此命以ハ國司。あや。云。母知。ハ意異あり。彼ハ命
を承。はりて負持。豆。此ハ命。豆。云。ひ。如

シテ。以ハ輕身辭あり。○伊邪那岐命。伊邪那美命。
上段。尔ハ神。ある哉。此より。てハ命。申せり。殊あ
ふ意。ハ。所。清。上。ハ。他。神。等。み。某。神。下
申。ゆ。爾。それ。等。く。神。ハ。申。せ。る。あり。下。小。至
ト。ハ。大。神。申。せ。る。處。も。あり。が。て。凡。て。某。命。御。名。純
下。小。命。て。ふ。こ。心。を。添。て。申。ハ。尊。む。称。なり。御。名。乃。み
あ。天。皇。命。神。命。御。祖。命。皇。子。命。父。命。母。命。那。勢。命。那
迹。妹。命。妻。命。妹。命。汝。命。あ。も。毛。云。る。記。中。又。万。葉。を。せ
少。多。う。り。お。て。こ。の。美。許。登。て。ふ。言。の。意。ハ。未。思。ひ。得。え。
昔。づ。り。人。の。云。ハ。字。ふ。就。く。思。す。説。あ。れ。バ。信。か。く。
且。ち。や。り。め。も。叶。ハ。矣。さて。許。を。濁。て。誦。人。も。ほ。れ。ぞ。記
中。ふ。も。書。紀。万。葉。あ。ざ。あ。も。假。字。尔。清。公。音。誦。人。も。ほ。れ。ぞ。記
か。き。バ。清。て。誦。清。濁。音。小。書。る。は。唯。漢。籍。尔。天。皇。を。主。

明樂美御德書る所あり。作ハ好字乃限を擇集免
する物也見ゆれバ。清濁乃定。すてふはわづる。まくま
き等。據等。命字を書ハ。本御言也云小此字を書るを。
ふふふ。命字を書ハ。本御言也云小此字を書るを。
言の同じあまく。尊称の美許登も借て用ひる
あり。元て言じふ違称バ。文字の義は拘らば。左より右
あり。借て書るは古。乃常あり。此字小目を付て。その意
て書紀アハ。この美許登を尊字也。命字を書別て。至
貴曰。尊自餘曰。命並訓美舉登。注。されど。されど。さ
臣也。称の同じあを悪て。強て別む。第小文字を書か
可賜ふ。撰者の所為なり。傍そそ純尊ハ。字乃意を取て
書きあれバ正字あり。命ハ。古より書來。其隨あれ

ば猶借字なり。然ふを尊小對て。お乃命字をも。臣ハ君
あり。と一強て云。バ。命令を出せん人を命也。云むハ。甚強言
ぞ。ヨリ有ふ似。と。其を羨み人を然云むハ。甚く事
ふをや。○是多陀用幣流之國也ハ。正。初段小國稚
如浮脂而漂する物を指て。詔す。彼處も久羅
下那洲多陀用幣流也。言此同じあを以て。内々
あはし。又下小引る書紀。一書。有物若浮膏云々。あ
る神も思ふ。唐しがれバ。上あも云る如く。天之御中主
神なり。此二柱神までは。う。却びて次第小同時み
成。坐て。此時も即ウの國稚。如浮脂而漂蕩る時あり。こ
て彼處もし云る如く。未國也云物ハ。あ。時あれども。

出来て後の名を以て。其初とし如此國々ハ語を傳し
なり。實ハ此時ハ。あぐ潮のう放ぐ凝。○修理固成脩
作ふハ正。一かく爻。修理ハ。あぐ作究書を同ド修せあり。玉垣宮
御殿ふ。修理我宮。あぐも書五。にて國を修理固せ云語
ハ。神產巢日神の少名毘古那神の事。大穴牟遲神ふ。
與汝葦原色許男命為兄弟而作堅其國。詔。御
下小見石。又其二柱神相並作堅。此國也も。文德實
佛毛平尔奉造固。字。也。和名抄み。修。修理固。三
理職をバ。乎佐女豆久苗豆加佐。也。修理固。三
字引。教。下。訓。流。し。成。也。成。竟。也。云。あ。也。あり。
是。もかの大穴牟遲神の殿。國難成を。云。あり。書紀。よ

も成不成の論。あり。乃て作堅。成。也。似。る。あ。也。を
かく重て云。ハ古語。あり。○詔ハ能理碁知豆。訓。流。
能流。也。人小物を云。聞。也。あ。也。あり。已。ゲ名を人。云。
聞。也。名告。也。云。も。知。也。又法を能理。也。云。も。上。よ
云。く。せ。下。定。て。云。聞。セ。あ。も。か。より。出。あり。告。も。
謂。を。が。純。字。を。も。能。留。也。訓。る。也。記。中。又。万葉。を。が。ふ
數。多。而。り。此。寺。純。字。を。今。本。り。ハ。誤。て。異。也。尔。訓。る。所
さ。て。此。詔。字。美。許。登。能。理。也。も。能。理。賜。布。也。も。云。也。美。許。
理。ハ。御。言。詔。あり。能。理。多。麻。布。也。云。ハ。此。理。を。省。む。あり。記。中。尔。ても
常。ふ。能。多。麻。布。也。云。ハ。此。理。を。省。む。あり。記。中。尔。ても
其所。乃。言。純。教。下。因。て。訓。さ。ま。い。さ。く。異。る。流。

されど能留てふ言ハいぢくみても離きぬあり。本そ
き与り様く小用ひ分くる故あり。能理碁都ハ書紀崇
神卷小令諸國あやあり。奇物語小獨碁都所聞碁都政
碁都あやし云るを同ド格みて。詔言爲を約束する言あ
里。應神紀小令有司也。源氏物語東屋卷小帝の御口がく碁都
豆あやするあり。望あは能理碁知賜を。後ふりひあ
きて能理を省ける語あ。○天沼矛書紀又天之
瓊矛也。書て。瓊此云努。書紀ノテ是を登富許訓來也
本小貳也。足。云。足。俗訓。努字。一
ら私記よ見ゆ。やれバ。沼ハ借字。玉あり。玉を
奴也云るハ。書紀小瓊響。瓊也。此云奴儺等母母由羅尔

也。今本瓊響二字脱り。又奴上小乎。字あも衍
あり。又其説。皆誤なり。此記や合せく考
ふ。自。奴儺等ハ昂瓊の響あり。能。字。一
ら明らか。奴儺等ハ昂瓊の響あり。能。字。一
又天武天皇の夫人小大難娘也。舊事紀小天難槍也
云あり。此ニを合せて思ふ。是も玉を奴也云る一乃
例ある。も。難字ハ。玉。由。字。も。和。味。也
誤。かくて瓊を書紀小常。又。近。訓。也。それを通音
ふ。奴也。も。云。一。也。矛。矛。ハ。和。名。抄。小。楊。雄。方。言。云。戟
或謂之矛。或謂之戈。和名保古。あと。釋名。云。手戟曰矛。人
所持也。字亦作鉢。和名天保古也。猶。此方の古書小ハ
か。古。通。ハ。一。書。也。鉢。也。多く書。ア。矛。也。手戟。也。云。小。鉢。也。
天保古也。云。ハ。古。名。小。ハ。也。一。手戟。也。云。小。鉢。也。

あくま彦し。上代ツ尔ハ殊ツ常小用ひし兵器ツハモノ也。古書小
多く見有アリ。日矛ヒボコチ、茅纏ヒシテ之辨ホコ廣ヒロ矛ハ尋ヒロ。招矛ヌボコ
云如く。玉以て飭カサ坐スル矛ホコある彦カサ。古ハかく跡物ホコも
玉をうづめる。常のあやアヤなり。さて萬ツの物モノ乎天アメノナニ之某也。
天アメてふ言を上小添アシタシて呼ハセマハ。御孫命の天アメモリ降坐シテ時。
大御身オホミ、御服ソヘルモノ、御役ミトキ、神等タチのアリぐモタ持モタ、
物をアリて天アメより降來アメコ。物多し。其時アリ此國の物モノ、
別ちて、天物アメモノとバ。天之某アメノナニいを呼ハセマ。而て後アリハ。此國アメノナニ作アメスルる物モノも。彼天物アメモノの制アメリ。云々。然レガ云ハセマ。而て又轉アリてハ。何アメ也。唯ホコ美称アメシキて云アメ也。思
云ハセマ。

はくもあかり。それりて天物アメモノハ美アメ一ヒ。さて此類
乃天アメハ。後不アメみアメ阿麻能アメノカニ。之アメ訓アメシキ。倭建命の御歌
小阿米能迦アメノカニ。書紀仁德御卷歌アメノカニ。阿梅箇アメノカニ。難廢アメノカニ
をアメ有アメバ。阿米能アメノカニ。阿米某アメノカニ。訓アメシキ。而アリ。
されば定アリある證アリの見えぬアリ。姑アメラ舊訓アメシキ。從アメラ。而アリ。
て今國アメノナニを作アメスル。固アメラ。而アリ。穴畏アメカニ。後アリの世アメノナニ心アメ也。如何アメ
ふ。所以アメも知アメラ。而アリ。穴畏アメカニ。後アリの世アメノナニ心アメ也。如何アメ
かアメ。言アメ為アメラ。又アメ矛アメハシ。或アメラ。今アメラ伊勢アメノイセ。而アリ。御
藏アメノカニ。信アメラ。難アメラ。云アメラ。りアメラ。○言アメラ依アメラ。賜アメラ也。言アメラ借字アメシキ。事アメラ也。而アリ事アメラ。書アメラ所アメラ。若アメラ言アメラ意アメラ。第アメラ御アメラ言アメラ依アメラ也。

る法無ふ。何の書も御云るハあし。依ハ因ヨサス也も寄ヨサス。也も所寄ヨサス也も書て。昂字チの如く與須ヨサスあるを延て云言あり。佐須サスを切カムバ昂須チスあり。元て古語ハ延タメても縮タメて云タメあら多し。其例ハ次乃立タヌ也。然らバ與世ヨセを延ては與佐世ササ也云法無也。與佐斯サシや訓ハいうあや云よ。古ハ與世を與斯サシ也も云るあり。書紀神代卷の歌小妹盧豫ロヨ嗣レニ豫嗣豫利據ヨリコ此奇上ハ網ワの序ソサエを序ソサエ云て。其依ヨサス來カム詠ヨミるある。目依ヨサス小依ヨサス來カム詠ヨミ如く。註ヨサス也も痛く誤ヨミり。望モロコシるハ目依ヨサス小依ヨサス來カム詠ヨミ云タメなり。又万葉十四十九小都麻余之許西ヨシサヘ詠ヨミ也。又も妻依ヨサス令來カム詠ヨミあり。此外もあり。又と與佐斯サシや訓ハ。

一かある證ハ聖武紀詔アガミノシラサム小吾孫ラスクリニオタシタト將知食國天下止ラスクリニオタシタト與佐斯ササ奉志ヨリシ麻爾マニ麻爾マニあり。佐サを清スミて誦ヨム法無ヨシ也。與須サス也延カム言ヨミを以テて知ル。今人多く濁ヨミふハ。ちて與佐須サス也ハ任タス字タスをも書ル。事タス其人タス小依任トリオナて。執行ミカラハ志ヨミむ意ヨミあり。光仁天皇タカヒコノミコトの藤原永手大臣タカヒコノオホオミの薨ヨリ坐スる大命オホミコトハ大政官之政平波誰タニヨナシ任カモ之加母罷ヨカリイ伊麻須ヨシマス也。詔タス也。誰タス任タスせ置ミカリて身罷ヨカリ坐ス也。又封字コトバを訓ヨサス也。其國の政を其人タス小依任トリオナひ意ヨミあり。言依トリオナふ語ハ。此卷の下タスも續日本紀宣命式祝詞ヨシガフ也。又も見タス也。皆同ド意ヨミあり。書紀ヨシガフハ勅任ヨリス也。又も。又應神ヨウジン。

御卷小任大山守命令掌山川林野あざもあり。賜ハ上乃賜也ハ異是て。あゞ尊みく申レ附辞ナリ。○天浮橋は天也地ぞの間を。神より純昇降を通ひ賜ふ路。小如クシム橋あり。空ふ懸もる故。浮橋也ハレアム。和名抄小魏畧五行志云洛水浮橋。和名字岐。波之モムハ水上よ浮ム。あれバ異ナリ。天忍穗耳。命番能迹ニ藝命あがミ。天降邑坐モセ。時も天浮橋小立しあや。下小見えアリ。而て此橋のこや。後人乃例の漢書心の。な。賢者說モは云ふ足称バ論。丹後國風土記曰。興謝郡郡家東北隅方有速石里。此里之海有長大石前。長二千二百廿九丈。廣或所九丈以下。

或所十丈以上廿丈以下。先名天梯立。後名久志瀆。然云者。國生大神伊射奈藝命。天為通行而梯作立。故云天梯立。神御寢坐間。仆伏云。此小因バ。此浮橋也。此神之作。坐し。あり。而て天ふ通ふ橋あれば。梯階みて。立て有。神の御寢坐る間。よ。仆も横とほりて。丹後國の海ふ遺。き。倭の天香山。美濃の斐山。を。うち故事の類。よ。神代小ハカ。麻子。い。多し。後人儒者心。も。勿あや。又播磨國風土記曰。賀古郡益氣里有石橋。傳云。上古之時。此橋至天。八十人衆。上下往來。故曰八十橋。これも天小往来し。一の橋也。見ぬ。神代

尔ハ天小昇^リ降る橋。此所彼所^{カシコ}ありあり。是を以て思^{カシム}。彼御孫命の降^{カシム}。時立^タ。は。此處天浮橋也。一。尔波^{コト}。別浮橋^{アモ}有^リ。乃て此を書紀、一書小ハ。ニ神立^チ于天霧之中^{アヌサギノナカニ}。曰云々。也もあ^リ。は。異ある傳^{アリ}。○註小訓立云多^ニ志。下小ハ天忍穗耳命於天浮橋多^ニ志而^{シテ}也も書^リ。書紀欽明卷歌小基能倍你陀^タニ志^レ。城之上^ミ。又推古卷歌小異泥多^ニ須^ス出立^{キノベニ}。立^{アリ}。其外^モ多^ニ古語^{アリ}。是ハ依^ヨセ與佐須^{サス}云小同^ク。延^ハ言^{アリ}。行^ユ由迦須^{スル}取^ト登羅須^{ラスモツ}持^モ毛多須^{タスモツ}守^モ。毛羅須^{モラス}待^セ麻多須^{マタス}を^ギ。元^テ如^{カク}此様^{サマ}小延^ヘて云^フ。常の

ありあり。そは先ハ尊^ツミ^{タフト}云語^フの如く聞ゆ。然も^{アリ}也。又賤^シ物^{アリ}者の上^タみも然云る^{アリ}也。何^モ可見^{アリ}。○指^{サレ}下^{オロシ}ハ。かの虛空中^{オホソラ}小如^ク浮脂^{アモ}。よ^リする。一屯^{ヒトカラ}の物^{アリ}中^{アリ}。指^シ下^シし。あま^{アリ}。書紀一書小伊弉諾^{イサノ}伊弉冉^{イサヌ}二神相謂曰。有物若浮膏。其中蓋有國乎。乃以天瓊矛^{アマツマサ}探成^{モツル}。鳴^{ケテ}名^{アリ}曰^ク破^ガ馭^{スル}盧^{ミト}鳴^{アリ}。以て知^{カシム}。○矛^{アモ}の下^{アリ}。以字ハ。佐志游^{サシオロシ}呂志豆^{リモカ}の豆^{アテ}小當^{アリ}。訓^ハ漢文語^{アリ}。○畫^{カキタハ}者^{アリ}。畫^{カキタハ}字^{アリ}。書紀一書小畫^{カキタハ}滄海^{ウタラヲ}也^{アリ}。又畫成^{カキタハ}破^ガ馭^{スル}盧^{ミト}鳴^{アリ}。似^{アリ}。あや^{アゲ}。猶^ホ此^{アリ}字^{アリ}。ハ^{アリ}。絆^バ。借^{カシム}字^{アリ}。式^{アリ}。祈年祭祝詞^{アリ}。

も。泥畫寄豆や書を。うわへ古より書来し字を。そのま
ま用ひる物あり。此迦久ハ。攬字などのみ意みへて。俗語
ふ迦伎麻波須云云が如し。書紀本書ふ。以天之瓊矛指
下而探之也。あり。彼一書の畫をも。口決ふ。以矛探海也
聖解する。よく當たり。画字ふ龍く云る註。さて其を迦
久空云るハ。允て手末にて爲るわざを。迦伎云く。空云
迦伎上ぐ。迦伎因に。迦伎乱に。あざのぞゆし。又必一毛手して爲れ。其状
の同ドキハ。物もて爲る事。然云。痒を搔。字繪
葉あざをかく。此ハ彼空中ふ漂する物。潮。泥の和身。木
く。此類あり。此ハ彼空中ふ漂する物。潮。泥の和身。木
を固め争爲ふ。矛以て攬探を賜ふあり。彼書紀乃探ハ。
上下の語を思

ふよ。探求する意あり。此記乃ハ非定。若
是を然承意せば。許袁呂迦。求ふ意アハ
有國は著明あれバ。尋求賜淺。云々。○鹽
毛。斯富。字ハ異一ツあり。和名抄小潮。
和名字之保齊。明紀の大御哥小子之良
云るもむ。○許袁呂迦。云々。下の大穴牟
許。袁。呂。迦。述。作。者。須。夫。須。夫。古。の。書。法。あり。下の大穴牟
遲。神。乃。段。小。巣。外。者。須。夫。須。夫。伊。莽。儀。而。毛。阿。誤。豫。伊。莽。儀。而。毛。阿。誤。豫。伊。莽。波。豫。阿。い。時。夜。塙。伊。
莽。儀。而。毛。阿。誤。豫。伊。莽。儀。而。毛。阿。誤。豫。伊。莽。波。豫。阿。い。時。夜。塙。伊。
而。毛。阿。誤。豫。書。る。あ。書。紀。純。古。本。ア。ハ。然。而。紀。純。古。本。ア。ハ。然。
有。一。を。寫。セ。ア。ム。古。ハ。冗。て。如。此。さ。ム。小。書。ア。リ。而。紀。純。古。本。ア。ハ。然。
虽。然。毛。也。其。ハ。同。字。の。重。也。也。省。書。ア。リ。而。紀。純。古。本。ア。ハ。然。
け。レ。ア。リ。正。シ。書。典。ア。リ。然。ハ。書。ま。じ。書。ア。リ。而。紀。純。古。本。ア。ハ。然。
記。ア。リ。正。シ。書。典。ア。リ。然。ハ。書。ま。じ。書。ア。リ。而。紀。純。古。本。ア。ハ。然。

も。此書格カキサみふ。彼矛以て迦伎賜カタマふ。隨レタひて。潮の漸ヤツクく同ドらサあり。彼矛以て迦伎賜カタマふ。隨レタひて。潮の漸ヤツクく
小凝コトゆく状サあり。昂許袁呂チヨラロ也。凝コル言も通すり。そハ下
卷朝倉官殿カサカニシマニ。大御蓋ミサガキ。落葉の浮るを。三重の嫁ウミゲ歌
よ。美豆多麻宇伎ミヅタマヒ。宇岐志阿夫良游アブナツキ。知那豆佐比美那
許袁呂チヨラロ。昂許袁呂チヨラロ。尔云。やあるを同ド。而て此の状コトを物
小譬ヘていはぐ。膏アラを煮アラを煮アラか。始ハジのやアラハ水
既ハシ如カタマくあアラ。七セかカタマて迦伎カキをせば。漸ヤツクく小凝コト
ゆく。如カタマ。但シ一膏アラを煮アラひは。らアラもあれ。潮ハ如カタマ
云。疑毛アラ。肴アラ。皆アラも。凝コトむ。古アラい。如カタマ。産巢日アラ。神の産靈アラ。ふよ
里アラ。國土の初アラ。神アラ。御アラ。為アラ。バ。今尋常の小
理アラ。以アラて。左アラ。右アラ。測アラ。云。考アラ。小考アラ。今
ハ。其アラ。狀アラ。を。あ。や。見アラ。い。す。乃。み。あり。○。畫鳴アラハ。彼
佐伎也。訓アラ。下アラ。著アラ。其アラ御刀アラ。前アラ之アラ。血アラ。云。以アラ御刀アラ之前アラ

浮脂ウキアラ。如漂ゴトる物タメを迦伎カキ。稍凝コトする物タメが成タヌあり。鳴
は借字アシカタ。成タヌの意タスなり。昂書紀チ。小は畫成探成カキナス。かうタヌ。也
書アシカタ。然アシカタ。然アシカタ。直アシカタ。小成アシカタ。字アシカタを書アシカタ。小物遠アシカタ。字アシカタを借アシカタ。也
あくアシカタ。書アシカタ。來アシカタ。今アシカタ。ハ如何アシカタ。也。思アシカタ。ぞ。も。古アシカタ。ハ例アシカタ。乃アシカタ。只アシカタ。何心アシカタ
ハ琴アシカタ。書アシカタ。彈アシカタ。加鳴アシカタ。字アシカタを比アシカタ。伎アシカタ。那須アシカタ。笛アシカタ。吹鳴アシカタ。
鳴アシカタ。字アシカタ知アシカタ。那須アシカタ。須アシカタ。允アシカタ。而アシカタ。鳴アシカタ。那須アシカタ。須アシカタ。鼓アシカタ。打アシカタ
此アシカタ。字アシカタ。借アシカタ。なり。○。旧印本アシカタ。註アシカタ。訓アシカタ。鳴アシカタ。云。那志アシカタ。也。
仰アシカタ。也。師アシカタ。ハ此アシカタ。用アシカタ。ひ。ナジアシカタ。テ。也。訓アシカタ。也。見アシカタ。そ。ハ。見アシカタ
ま。ふ。也。み。あ。ま。ふ。也。云。格アシカタ。の語アシカタ。見アシカタ。られ。ある。く。也。さ
坐アシカタ。那志アシカタ。い。や。あ。○。引上アシカタ。ハ。彼矛アシカタ。を。あり。○。其矛末アシカタ。末アシカタ。ハ
鉢末アシカタ。新撰字鏡アシカタ。も。欽アシカタ。保アシカタ。已アシカタ。佐アシカタ。支アシカタ。也。れ。バ。あり。國アシカタ
等アシカタ。桂アシカタ。

大雀命の御刀を見てよき。哥小波加勢流多知母登都流藝須惠布由云てやれバ。須惠也訓むも誤あり。字本多キ。○無落ハ斯多陀流也訓落シ。書紀の訓方ふよく。○無落ハ斯多陀流也訓落シ。書紀の訓も然あり。又斬刀垂血あざもあり。斯多陀流の斯多ハ。酔也りふ也同じ。○落の下ある之字諸本小鹽字下ふあるハ誤あり。如此下上小写誤也例徃く小有り。今ハ一本より書紀みも滴瀝之潮。○無落之潮也何且記中の之字を置添例も。然も亦あり。○累積ハ都母理豆也訓落シ。○淤能碁呂鳴ハ。碁字諸本ふか基モリテ。此島は國土の成る初叶也。地也云。名ハ。沼の聯接也成る。由リて都豆比遲の約まふ。ある。自云所以ハ。他の鳴國ハ皆二柱神の生成賜宣ふ。此鳴のみ然らば。自然も成りて然あり。故下み唯意能碁呂鳴者非所生望あり。是鳴を御國乃本名也。云ハ古語知ぬ者のひが言あり。袁能古の袁ハ音異なり。自ハ淤能ノ音ふて。よく叶う。後世よりの假字ふ袁を用ひハ誤あり。其餘も説共多かれ。皆云ふ足。さて此鳴の在所ハ高津宮段小天皇の淡道鳴よ大坐もて純大御歌也。阿波志摩淤能碁呂志摩。阿遲摩佐能志麻母美由云て也

○古事記傳四
○十三

大雀命の御刀を見てよき。哥小波加勢流多知母登都流藝須惠布由云てやれバ。須惠也訓むも誤あり。字本多キ。○無落ハ斯多陀流也訓落シ。書紀の訓方ふよく。○無落ハ斯多陀流也訓落シ。書紀の訓も然あり。又斬刀垂血あざもあり。斯多陀流の斯多ハ。酔也りふ也同じ。○落の下ある之字諸本小鹽字下ふあるハ誤あり。如此下上小写誤也例徃く小有り。今ハ一本より書紀みも滴瀝之潮。○無落之潮也何且記中の之字を置添例も。然も亦あり。○累積ハ都母理豆也訓落シ。○淤能碁呂鳴ハ。碁字諸本ふか基モリテ。此島は國土の成る初叶也。地也云。名ハ。沼の聯接也成る。由リて都豆比遲の約まふ。ある。自云所以ハ。他の鳴國ハ皆二柱神の生成賜宣ふ。此鳴のみ然らば。自然も成りて然あり。故下み唯意能碁呂鳴者非所生望あり。是鳴を御國乃本名也。云ハ古語知ぬ者のひが言あり。袁能古の袁ハ音異なり。自ハ淤能ノ音ふて。よく叶う。後世よりの假字ふ袁を用ひハ誤あり。其餘も説共多かれ。皆云ふ足。さて此鳴の在所ハ高津宮段小天皇の淡道鳴よ大坐もて純大御歌也。阿波志摩淤能碁呂志摩。阿遲摩佐能志麻母美由云て也

ノハ。大八嶋國の成瀬ノ基あり。其故ハ。ニ柱神國土を
生成賜むや。殿造^{トノヅリ}して共住て。其柱を廻^{トモニスミ}遂て御合坐
ふ。此嶋ハ。其殿の柱を立^{ツギ}ば^モ基の先成堅^{ツナリ}カタ^{モトキ}りする物あれ
ばなし。猶其事ハ。次^{ツギ}く小見かゝる。ば考て知^{ツギ}ト。
ソノレニアモリバシテ。アメノミハシラヲミ^{モトキ}
タテヤヒロドノヲミタテマニヒキコニ^{モトキ}
柱見立八尋殿於是問其妹伊邪那美命曰汝身者如何成答^{ナニツチ}

曰吾身者成成不成合處一處
在爾伊邪那岐命詔我身者成
成而成餘處一處在故以此吾
身成餘處刺塞汝身不成合處
而爲生成國土奈何。訓生云宇
牟下效此

伊邪那美命答曰然善。爾伊邪
那岐命詔然者吾與汝行迴逢
是天之御柱而爲美斗能麻具
波比。此七字如云期。乃詔汝
者自右迴逢我者自左迴逢約

竟以迴時。伊邪那美命先言阿
那邇夜志愛上袁登古袁。此十
音下後伊邪那岐命言阿那邇
效此後伊邪那岐命言阿那邇
夜志愛上袁登賣袁。各言竟之
後告其妹曰女人先言不良。雖

然父美度邇以音四字興而生子
水蛭子。此子者入葦船而流去。
次生淡嶋。是亦不入子之例。

天降坐而ハ阿母理麻志豆々訓傍し。万葉二卷三十小。
和射見我原乃行官尔安母理座而天下治。賜云々。又三
卷十六小天降兮天之芳来山。又十三卷三十よ葦原乃水
穗之國丹手向為跡。天降座兼云々。又十九卷三十小安

母理麻之云。あやも有ふ依より。阿麻久陀理也訓。もゐ
八よ。葦原能。美豆保。國乎。安麻久太利。ア
之良志賣之家流。あやもあれバあり。安母理ハ阿麻湫
理あり。天下の約をとる古言あり。抑此二柱大神ハ高天原
み生坐る神よハ非也バ。今初て天降坐リハ。初
天神の大命を承玉賜あぢて。參上玉坐る。降つてあ
まゆり。然ふよその參上強坐。一うやく。初。小云。やる
ハ其事は。う。も要ある。省。下。書紀の傳。アハ。天神の大命を兼玉。下。文。も。有
る。あ。を。下。省。下。傳。下。有
高天原よ參上玉賜する。降。あ。ま。ふ。あ。バ。下。文。も。有
反降。や。あ。如。く。此。も。反降。云。ば。云。ば。あ。い。ば。答。初
よ參上玉坐。時。は。い。あ。ざ。浓能暮。吕鳴。ハ。無
す。時。あれ。バ。於。其。鳴。反。云。ば。云。ば。ふ。あ。
柱ハ。即次。み見。あ。八尋殿の柱あり。別よ立賜。アハ

明石、巻、哥、ふ。宮柱也。さりやひひもる。云々やくらむハ。蛭子
城よちる。哥乃荅、ふす。うく乃天の御柱のちゆあくを。
宮柱也。よちる。作者の心は知
れまざも。自ら實よりあすり。和名抄ふ。柱和名波之良
也。あり。凡て殿を造るあゆを云々。先柱を云ハ。底津
石根よ宮柱布刀斯理あが。古の常なり。大殿祭の祝詞
ふ。天皇の御殿造奉る詠ゆを云るふも。奥山乃大峠小
峠尔立留木乎。齋部能齋斧乎以伐操氏。本末乎波山神
尔祭氏。中間乎持出来氏。齋鉏乎以齋柱立氏。皇御孫之
命乃天之御翳日之御翳止。造奉仕礼流瑞之御殿云々。
かく專柱のあゆをきりわきて云々。且此處ハ。下み柱
を行廻ふ。大禮を申し段ある故ふ。初より其を立賜

ああや哉。先云置亦たり。書紀一書み。化作八尋之殿。又
化豎天柱。豈あるは。此柱を又別よ立。賜ふ如く聞ゆれ
哉。ちりはあべ。是も其始を先云置て。猶あらうふ
又字をすす加。賜する物あても。さて天之云ハ天あ
涼殿舎の柱のすら作立ぬ。故よ添て云あせ。天
沼矛の所み説る。如し。書紀よ國柱也。云々。
紀み。以破馭盧鳴為國中之柱。柱此云美。云々。
あるが如くなれども。彼鳴の成まるは。此殿の柱を立
法基の成まるふと。其基も即柱あれバ。あく同じ古
聖なり。屋を支持物ハ柱みて。其柱の本を支持物
地あれバ。地も柱あり。風も天御柱國御

ら其處シトコロふ臨てリタマツテ發せ遣ハサシテ。見ミアリ所知者シロシメスあリの者メスも。此シ見ミアリ同ド。此シ音ヨミハ。即字ナカニの如くふくヒラフ見るミル。古言コトバふ美須ミツス雲クモ聞ミムを伎許チキス須ミツス也メス。云クモ也メス。同ド。此シの美須ミツスを通音トウイニふく賣須ミツス也メスも云クモ也メス。万葉ミツタケの哥アザミ小常多コトノハタチちシテめり。ふくヒラフは目メみ見ミルふシテ。此シ音ヨミみシテ。何事ナニハふまれ。身カラ受入スル。意シテふ多くシテ。云クモ也メス。天下所知者シロシメス政シテ所聞者シロシメス。あリ御立ミツタツ如シテ。亦シテ此シ言コトバの意シテ。寝坐ミツシタツ御合坐ミツシタツ。あリ御立ミツタツの意シテも。此シ御立ミツタツ。若シテ其意シテ。バシテ御字ミツタツを書スル。此シ記メモも。御立ミツタツ。又シテ此シ字シテの意シテハ。此シ訓ミツタツ。此シ記メモも。依シテる。心得シテ。決シテ。此シ字シテの意シテハ。此シ訓ミツタツ。此シ記メモも。依シテる。又シテ此シ字シテの意シテハ。此シ立ミツタツ。此シ記メモも。依シテる。又シテ此シ字シテの意シテハ。此シ立ミツタツ。此シ記メモも。依シテる。此シ名メモ。下木花之佐久夜毎賣の段セイタツ。○八尋殿ハシロ比ヒ呂杼能ミツタツ訓ミツタツ。之シテ添タマツテ。よもハ。ヨロカミツタツ。是シテ。書紀シラタタキハ之シテ字シテを加シテ。書スル。あれシテ。彼カナ。又シテ此シ字シテは元シテ漢文カンブン。章シラタタキを旨シテ。也シテ。此シ記メモも。依シテる。又シテ此シ字シテハ。此シ名メモ。下木花之佐久夜毎賣の段セイタツ。ハ依シテ。此シ名メモ。下木花之佐久夜毎賣の段セイタツ。

毛作無戸八尋殿ハシロ。云クモ。書紀神代卷シラタタキ。於秀起浪穗之上起八尋殿ハシロ。而云クモ。あリ。又シテ。履中紀山城風土記。有シテ。八尋屋ハシロヤ。云クモ。あリ。又シテ。倭姫命世記。ハシロヤ。八尋殿ハシロの廣さの度シテを云クモ。ふて。ハハ必シテ。七七八ナナハチ。数カウ。ハナハナ。彌ミ。約ツバメ。あり。言シテ。元シテ。八重八雲。又シテ。八十八百八千。其外八ハシロ。某ナニ。云クモ。あリ。古シテの常シテなり。皆シテ。同ド。詮シテ。ふく。唯重カサ。多シテ。云クモ。然シテ。神道ミツタツ。ハハ。此シ數シテ。就シテ。種シテ。云クモ。あリ。皆シテ。例シテ。漢書カンブン。詳シテ。都尋ヒロ。古シテ。乃シテ。意シテ。物シテ。八ハシロ。齊シテ。後シテ。態シテ。あり。尋ハシロ。兩手ツツ。伸シテ。長シテ。云クモ。今シテ。人シテ。然シテ。一尋ヒロ。定シテ。其シテハ手シテ。廣シテ。度シテ。故シテ。一廣ヒロ。二廣ヒロ。其シテ意シテある。

彦し。漢國ふても。諳時知尋。あやめられバ。上代アハ。然有
は今も猶八尺をバ云。徧。况神代ハ思ひやる。彦。且ハ
尋。云も有。以。八六丈四尺。又。云。ぬを悟。彦。且ハ
和名抄小殿。和名止乃也。あり。さて先此殿を見立。賜ハ
女男共。住。御合志賜ム料。あり。そもく其殿立。賜ム
雲。までは。云。でも有。彦。先。如。此。云。ハ。古妻問。次
あは。先其屋を建。あやめ見。而。須佐之男命の須賀
の宮作。も。都麻碁微。尔夜弊賀岐都久流。詠。を見
シ。篠。專妻を籠居。も。ある。後。知。うれ。又。万葉三巻勝
鹿真間娘子墓を見て赤人歌。小。古昔。有家武人之。倭文
幡。乃。帶解替。而。廬屋立。妻問。為家武云。是ハ。契冲又師

也。此。ふ由。ゆる。治。も。思。リ。是。も。古。賤者。も。廬屋を
立。て。妻。問。ひ。や。り。ふ。云。あ。は。乃。有。故。よ。かく。續。て。よ
ま。か。や。見。ゆ。か。れ。バ。此。の。八尋殿。も。徒。ふ。云。る。ふ。は
非。是。由。ゆ。る。あ。や。き。書。紀。も。同。宮。共。住。而。生。児。や。も。あ
ふ。や。○。汝。身。ハ。那。賀。美。や。訓。彦。し。汝。ハ。此。字。常。ふ。漢。文
空。訓。古。書。ふ。ハ。伊。麻。斯。や。訓。あり。上。代。の。歌。ぞ。も。あ。も。多
是。ら。も。惡。ノ。お。ふ。ハ。所。や。稱。猶。上。代。の。歌。ぞ。も。あ。も。多
く。那。詠。又。那。礼。吾。を。吾。禮。已。を。已。禮。云。那。兄。那。泥。汝
妹。汝。者。允。恭。紀。ナ。ミ。ト。那。年。遲。也。那。年。遲。也。那。年。遲。
那。年。遲。也。那。年。遲。也。那。年。遲。也。大。穴。牟。遲。也。牟。遲。也。牟。遲。
あり。物。語。文。ア。ハ。伎。牟。遲。也。云。称。も。有。伎。ハ。君。乃。意。あり。
かれ。バ。汝。ハ。那。詠。云。ぞ。本。あり。ける。さて。又。是。を。伊。麻。

斯也云るハ。万葉十一十四丁。小伊麻思毛吾毛事應成。又
十四五丁。小伊麻思乎多能美云。續紀高野天皇大命小。
朕我天先帝乃御命以天朕仁勅之久。天下方朕子伊末
之仁授給云。是等あり。万葉十四一後物語。又續紀
の宣命也。九の十六丁十七三十五丁。美麻斯也。那も
那も伊麻斯も。後レハ下レの人。小珍みりす。い
や上代レハ然らバ。其本ハ尊タトむ人もいする称なま。
汝字を當レし。思スバ。其頃ハふありては。早く尊タトむ方ハ
云。づりレ。漢アムも上古ハ爾汝アヅ云。称ス。上
下の別ル。ちハアム。くレ。御國アム文カタカタ。已ヨ。夫ヲ。汝ナ
字の渡ル。參ス出ル。頃ハ後アリ。然ラ。夫ヲ。汝ナ
云ス。沼河比賣ヌカハ。歌。又須勢理毘賣セリビメ。歌。あゲ。見
云ス。沼河比賣ヌカハ。歌。又須勢理毘賣セリビメ。歌。あゲ。見

衣。建内宿祢の歌アハ。天皇スメラギ。也。那賀美古ナガミコ。汝之御
申せり。又某之ナニ云。某賀ナニガ。云。也。後アハ賤イヤレ。方シテ取
て。上代アハ。是も上下別ル。ぬ辭マク。之アハ。云。小同じ。○如
何成ハ。伊迦イカ。尔ナレ。那礼流ル。訓マシ。女神オホ。大御身ミ。の成ル
やのひ。形狀アリサ。如何アムギ。男神ヒ。向タク。賜ス。或リ。
○成成アリケテ。ハ。初生アリ。より漸ヤウく。小成ル。成畢ス。或リ。
云ス。あり。書紀アリ。具成アリ。而コヘ。くテ。戀ユキ。くテ。而コヘ。行ク。而コヘ。あリ。乃格サ。の言ス。
足アハ。○不成合處アハ。缺カケ。て。滿タラ。ハ。ぬ。如ク。す。處アハ。を
詔ス。或リ。即チ。御番登ホト。あり。書紀アハ。對曰。吾身アリメハメトコロヒトコロ。有リ。稱陰元者ナムシメトコロヒトコロ。一處アハ。也モ。

五。○問曰答曰あやめ訓格ハ初巻訓法條ふ云るが如し。○伊邪那岐命詔この詔ハ能理多麻比都良久空訓添し續紀の詔小詔賜都良久云々止負賜詔賜比志爾もく勅豆良久云々止負賜宣賜志あやめふ依り。都良久云る例ハ記中須佐之男命の御言みも白都良久也。さて此所の御言乃終小登詔賜者云おを再讀添し是も彼大命也もふ依り。古語のさだまりたり。此事も訓法條ふ委く論するが如し。○成餘處也ハふくれ出て身の外も贅るが如くあるを詔す。書紀アハ陽神曰吾身亦有雄元之處也。又一

書ルハ陽神曰吾身亦具成而有称陽元者一處也もあ至。○以字は處表の表ふ當て讀添し。○刺ハ挿入ふか至。塞ふ属ある輕き辞ふハ也。○塞ハ布多岐也訓添。和名抄ニ或以用字爲男隕也。○國土ハ久迹也訓添。下ノ國土皆震也。あるあやハ久迹都知也。阿久也。久迹也。久迹乃み訓添。○生成ハ唯生ニ也れ也。其を成也も添て詔多ハ竹取物語小已。成奴子あ多ば心。心も從事。也見。う乃源藤原君。卷小。此春子一人あつてかくれ。あき也。生を那須。嘗云至今世言みも。もく親子を成奴中也云至。又大被

の詞ふ國中尔成出武天之益人等生るゝも生出るを
云也。○爲ハ於母布波^ハ訓^ハシ。迹^ニ藝命の佐久夜毘
賣小^{アレオモハハビセトイニ}吾欲目合汝奈何^{イカニ}詔^{タキ}する空。語も意も似あれバ
あり。記中小於母布^{オモ}サリ^フふ。以爲書る例徃^{トコロ}此み例
也。又爲一字を書る例も一二例^{ツツ}あり。真福寺本^{アリハ}
ハ例多きれバ殊ふ^クあれ。其餘の本^{アリ}も尔ハ
皆以字無きれバ今ハ其^シふ從^テ教^{カナ}加^クく^{スル}於母布^{オモ}
訓^ハシ。下^{アリ}奈何^{イカニ}詰切^{カタマリ}て惡^ハ。爲^ハ訓^ハシ。訓^ハムも惡^ハ。
○奈何ハ伊加爾^{イカニ}訓^ハシ。語の終^ハ小かく奈何^{イカニ}云^ハ
也。記中みも例あり。又万葉十六卷^ミ隱耳戀者辛苦。山
葉^ハ後出来月之顯者如何^{イカニ}。これ此^ハ語勢^{コトバヅキ}よく似

あり。○註小訓^{テヲ}生^ウ云宇牟^{ムト}。あく^ハ疏生ハ^ウ字美^ミ訓^ムある城。
如此^{カク}云^ハるハ如何^{イカニ}。疑人有^ム。凡^カ活用^{ハタラ}く言の字乃
訓注乃例天之常立神下小訓^立云^タ多知^{ナト}。神集^ニ而。
訓集云^{テヲ}都度比^{ツドヒ}。云^ハ其處の訓様^{ヨミザハ}のまくに注^セる
あり。又伊都之男建訓^建云^{タケブト}。云^ハ多祁備^{タケビ}。訓^ム
されども其^シ拘^{カハ}定^シ。言の居^キる方を以て注^セられ
也。あくも是^ノ例あり。且此生ハ^ウ次^ニ小多かる言^ハて。下
效^ハ此^ニ也。されば其^シが中^ハ左右^ハ活^ハして訓^ム所あれバ
其^シ等^ヲも總^{ハシメ}て。如^ク此^ニ注^ハ傳^{ハシメ}て^{シテ}。然善ハ斯^シ
詞余祁牟^{ヨケム}。訓^ハシ。師^ハ字倍那理^{ハシメタリ}。是^ハも意

遠男神の詔事タマシを諾ひて御答あり。然ハ吾も然思ひゆ意みて。然也云む如し。然也。然ばり。後之物語タマシ多き。又志詞理ヨリ云ハ。然有の約あり。語あり。善ヨシ一ヒツの詔云。云ハ。然有の約あり。語あり。善ヨシ一ヒツの詔。あはあ。又讀切る心バ。余有アリ。余祁牟ハ。善加良牟ム也。云小同タマシ古言あり。天智紀の童謡タマシ。多施尼之曳鷄武ケム曳ハ。余あり。同時の哥シロ。御吉野。万葉あやみも。多ウリ。○行迴ユキイハシ。上代の大礼ミサニを見有アリ。此ハ其男女先柱オキミズ。行迴ユキイハシ。上代の大礼ミサニを見有アリ。此ハ其男女。遇合ミダラの始メタタク。先此禮ミサニを行ひ賜ふ。甚シテ深き。詒ミダラ。先此禮ミサニを行ひ賜ふ。甚シテ深き。詒ミダラ。先此禮ミサニを行ひ賜ふ。甚シテ深き。詒ミダラ。

牟ム也。云小同タマシ古言あり。天智紀の童謡タマシ。多施尼之曳鷄武ケム曳ハ。余あり。同時の哥シロ。御吉野。万葉あやみも。多ウリ。○行迴ユキイハシ。上代の大礼ミサニを見有アリ。此ハ其男女先柱オキミズ。行迴ユキイハシ。上代の大礼ミサニを見有アリ。此ハ其男女。遇合ミダラの始メタタク。先此禮ミサニを行ひ賜ふ。甚シテ深き。詒ミダラ。先此禮ミサニを行ひ賜ふ。甚シテ深き。詒ミダラ。先此禮ミサニを行ひ賜ふ。甚シテ深き。詒ミダラ。

あり。又事純初を端坐りふも。此さて然廻玉げる柱は。
御柱廻玉乃事み由あるあり。女男隱寝ふ身屋屋ミアラカ後小田モナカの中央の柱みど有をし。其故
は後世まで神の御殿造奉るふ。其中央よ心御柱シムノミハシラ云
を建て殊小齋イハひくしがくハ。其說ヤウモ後人の設ケ
上代より純傳あるびく。心御柱ミハシラ言コトなれ。然シカく事は。
中心ナカゴの意ふく。中央ミハシラふ立ツツク故乃名あリむ。是を
人心ヒトココのうやふ取成タチナリてりふは。例の妄言ミダリゴトあり。又今人の
屋ヤふも。中央の柱を大黒柱ダイコクバヒラ云て重オモくはある。大黒の
世人の漢籍カジキある太極タキョクてふそよナ。是を云出ウケ一ヲ云ウケむ。名了オモを信ウケ。是
も神代より夫婦のかづひの始メ。小廻柱コモリスある故モ重オモ
く崇スガまける。上代より純傳あり事純遺ヨウするある。云け

由伎米具礼流あざはり。語を置て伊由伎也よもれバ。此も然訓彦アヒトキモれがし。されば。奇クニアヒトキモ。あど文アヒの事アヒ免アヒ。ちと浅アヒく考アヒ。○美斗能てこのあぐアヒ。今人ハ辨アヒあくみづり耶。○美斗能麻具波比。具を清波を濁アヒて訓はひ。ゲ作アヒあり。トラ部兼俱アヒ此清濁アヒ乃說あれ。云ふあくぬ妄言。アミト美斗ハ御所あり。所を斗アヒ云アヒ。上意富斗能地神下傳三アヒ四アヒ小說。其アヒ中アヒも夫婦隱アヒ寝アヒ所アヒも。十二葉アヒ。下アヒ大穴牟遲神アヒ。八上比賣アヒ小美刀分アヒ所アヒ云アヒ。下アヒ大穴牟遲神アヒ。八上比賣アヒ小美刀阿多波志都アヒ。同アヒ。彼處アヒ。傳十アヒ六アヒ。望考合次アヒ。又久美度延興アヒ。同アヒ。度アヒも是アヒ。あり。久美度アヒ。云アヒ。此アヒの美斗アヒ。即アヒ久美度アヒ。同アヒ。言アヒ。は。委アヒ。其アヒ實アヒハ同アヒ。トキアヒあれ。也アヒ。言アヒ。本アヒより別アヒ。

床の斗嫁の斗あやも是。嫁アヒハ所アヒふ就アヒ。具アヒ濁アヒふは。小濁アヒふも。戸毛彼所アヒ小立隔アヒるかアヒ出アヒ名アヒ也。麻ハ宇麻あり。宇を省アヒ多アヒし。凡て何事アヒも可美物アヒ爲アヒ。宇麻云々。云アヒ多アヒし。書紀繼體御卷歌小女男う。麻アヒ寝アヒ。许アヒ。于魔伊祢アヒ。類アヒ。有アヒ。宇麻の註アヒ。初。神の下アヒ。具波比ハ。麻より連アヒ故。小具アヒ濁アヒ。也アヒ。古頭アヒ。よ。何アヒ。具波比ハ。麻より連アヒ故。小具アヒ濁アヒ。也アヒ。古頭アヒ。よ。言アヒ。有アヒ。比阿波比。凡物ニアヒ一アヒ小合アヒ。久比阿比の約。至アヒ。万葉十六卷小尺度氏娘子アヒ。美き貴人のよばふを第。聽アヒ。矣。かくアヒ。醜男小逢アヒ聞アヒ。兒部女王の美。

廉物何所不飽矣坂門寺之角乃布久札尔四具比相尔
計六皆有云。これあり。是も四より連故。今世語小物
を作合ひを。志久波須也云も。即此志具比阿波須の
約也。久波須也云も。即此志具比阿波須の
久比阿比の善惡あり。具也濁ふは。是も本ハ志具波比
じと後ふそは。又伊勢物語歌ふ。世をうみのひよし
省き。又。又。又。又。又。又。又。又。又。又。又。又。又。
人を見るか。久波世與也も頼る。哉。後この奇
此目久波須毛。久比阿波須の約也。彼方此方目
を見合ひを云あり。是等ふく其意を知。楚辭九歌
獨與余。彼不成合處也。成餘處也。宇麻久比阿布を。麻
兮目成。

具波比也ハ云あり。俗小嫁を一朝小為也。アテ記中云
目合也云る。アヤシテうぐふ。是も右の意以て見
る。尔。麻具波比也訓法也。其ふが象也。彼目久波須
也思ひ合。汝。麻ハ目の意。も。ひ。じ。り。然らバ。
具波比も目を合ひこそ。小ありて。右の考也ハ語の本
合。此物異あり。アレヤ目を合ひハ心を交ひ。其を
即交合のあや。云。ア。おれバ。末ハ。一。小落るぞ。ち。大
穴牟遲命の段。目合の下。傳十の云。考合せ。云。誤
び取。○如。此。云。期。云。字諸本。云。之。作。云。云。誤
延。佳。云。實。云。之。云。記。中。云。之。云。相。云。誤。云

ふ所多
かり故今も然定^{レカ}て改末^ヲ期ハ知岐理豆^{ギリテ}訓^ハ
1. 蜻蛉日記ふかくしひらめりかれば思ひうする^ハ
きみもあ^ハ之○自右廻^{ヨリメグリアヘヒダリヨリメグリアハム}逢^{ミキリヨリメグリアヘヒダリヨリメグリアハム}自左廻^{ヨリメグリアヘヒダリヨリメグリアハム}右ハ師の云く後
世よハ美岐^{ミギ}也いすむし美岐理ある^ハ之今も遠江^{アシカニ}お
ざあは然云あり云もき伊勢^{アシカニ}亭子院歌合日記
ふうもだら^ハ階のひざりみがりふふれ分て侍ひ
あまふせ^ハめり美岐理^{ミギリ}訓^ハし^{コハ比陀理^{ヒタリ}}小對^{スル}稱^{ナム}あれバ^ハあやみ美岐理^{ミギリ}也云^ハあやみ^ハ故^{アル}古^{アラ}證^ハい^{オゾ}見^ハア^ハズ
ざれやも姑く此伊勢^{アシカニ}文^{モリドロ}を據^{スル}師說^{シテ}小從^{ヒテ}ひ於^{スル}
今も遠江乃みあ^ハ餘國^{ホカノクニ}慕疏^{シテ}小^ハ之^ハ行^ハ逢^ハ賜^ハ故^{アル}ある^ハ其^ハ傳^ハあきれバ度^ハ
ふも然云處^{コモリ}もあ^ハりあり^ハさてかく廻^{ハシカニ}至^ル右左^{ハシカニ}を定^ム
賜^ハ故^{アル}ある^ハ詮^{ハシカニ}也^ハ行^ハし^ハれ^ハ其^ハ傳^ハあきれバ度^ハ

知^{シル}流^シふ何^ハ然るを妄^ハふ漢籍^ハ陰陽^ハ云^ハ之^ハを
又是^ハ月日^の廻^シ坐^ス之^ハ小取^{アハ}都^ハ信^ル坐^ス之^ハ也^ハ之^ハを
み同會^ハ一面^{シテ}之^ハを東北^方ある^ハ之^ハ也^ハ纂疏^{シテ}小^ハ之^ハを定^ム
も甚^うう^げく^も之^ハ何^方より^ハ廻^シ之^ハ何^方ある^ハ行^ハ逢^ハ賜^ハ
ふやりふあや^ハ傳^{ハシカニ}あきれバ此^モ知^{シル}流^シ之^ハ小^ハ之^ハを定^ム
○約竟以^テこの約^ハ上の三段の約^ハ總^メて云^ハり三段
也^ハ初^ハ以此^ハ吾身成^ル餘處^云然善^也何^也次^ハ吾
與汝行^{ハシカニ}廻^シ云^ハ之^ハある^ハ次^ハ汝者自右云^ハ之^ハある^ハ
也^ハ是^{アリ}知岐流^ハ行^{ハシカニ}懸^スて云^ハ之^ハせしむ^ハ互^ハ小^ハ云^ハ
固^{カタ}も^ハり竟^ハ只^ハ輕^く見^て有^{アリ}又^ハ極^シ免^ス盡^ハ意^ハ
ふも^ハり^ハ致^{ハシカニ}都^{アリ}追遊^{アル}可^{ハシカニ}有^{ハシカニ}この終^モ春^{ハシカニ}中^{ハシカニ}樂^{タヌケ}事^{ハシカニ}の至^{ハシカニ}極^ム

云々。祝詞ヤハラガルもふ称辭竟奉ヤハラガル也。極先盡ツクレを云々。
○阿那ハ。上件阿夜訶志古泥神下ノトムもウ幼カミぐ云々。古
語拾遺カミラグダリ事之甚切皆称阿那ナニ也。何事ナシもすれ。さし
當て切セチよ思オボゆる哉。阿那云々云フ書紀神武卷アナ大醜
此云鞅奈湫ミニク你句ヤマゆり。万葉ハヤヒトクチハ多く痛キカ書シテ。又伊
勢物語オニ鬼早一口クヒ小吹ヒトクチてきり。阿那夜アナヤ云フ毛シギ。雷
鳴ナル子ヤシわヤシ矣エキカ得ヒトクチ聞ヒトクチざりけタマ。ちタマも云フ。後アリハ轉ツクリて。阿
○近夜志ナニヤシハ。近てコトバ言ヤシ。夜志ナニヤシてコトバ辭ヤシを添ツメムあり。此
を書ヤシ紀アナニヤヤ。憲ヤシ哉ヤシ美ヤシ哉ヤシ。書ヤシ一書ヤシ。妍ヤシ哉ヤシ
書ヤシて。此云阿那而惠哉ヤシ見ヤシ。又神武御卷アナニヤヤ。妍哉此ヤシ

云鞅奈珥夜也も有り。字書ふ。惠、悅也。悦も好也。也も注
せ。曼寺の字を以て。迹てふ言の意を解説し。書紀の惠
の夜志乃如。惠を妍字ふ當て心得ふハ誤あり。神武
卷うハ。惠を省ふ。あくも知ば。ア。ナ。ニ。エ。ヤ。等訓ば。字をい
武乃訓註ふ。従ひく。みふ。ア。ナ。ニ。エ。ヤ。等訓ば。字をい
侍きれバ。あり。さく何多モ。惠夜乃意モ。阿那の意モ。哉
字ふ。うもきくば。妍美惠字ぞ。正。迹てふ言うハ。當
き。夜志ハ。波斯祁夜斯。縱惠夜師。あ。の夜志。み。歎の
夜小志を添ふる辭あり。師ハ。迹キも歎く辞あり。云
上云ふ。云ふ。又書紀。武烈。卷繼体。卷あ。の歌。誰人を
陀黎耶始比登。可。又一書紀。一書ふ可愛。作て。
此云哀。見。本書ふハ可。美。又一書ふハ善。云。此
云哀。見。本書ふハ可。美。又一書ふハ善。云。

女を云称あり。万葉ふハ處女未通女あや書巴未夫
比於岐斯都流岐能命御哥云似られ然也既
表登賣也よみ賜すり。又童あるをも云る許多し。
是等嫁て後をいすり。又童あるをも云る許多し。
古也ハ童あるをバ云ハズ。中昔あも元服ひるを壯士
表登賣也云ハ女ハちくらむ。○終の袁ハ余望云小通
ふ少子を賞承故也。○終の袁ハ余望云小通
ひて。袁登古余袁登賣余望云むぎ如し。此例古多し。其
八重垣袁あざの袁也。其八重垣袁作承也。上八重垣余
の意あり。倭建命の御哥の末を續する哥也。比迹波登
袁加袁の袁也。又若櫻宮段乃大御哥也。大坂尔遇夜壇子

等の字ゆて其意顯あり。白橿原宮段の大御哥也。延袁
斯麻加牟也。延也。可愛少女也。云あやあり。又朝倉
官段の大御哥也。吉野を延斯怒也。讀せ賜ひ。前小引也
善け争を曳鷄武也。又住吉日吉の類。古余伎を延
や云る許多し。今も然も云あり。書紀の可愛ハ。字の
記の愛ハ。只假字ふく。意。○袁登古ハ。古ハ袁登賣也。對
あし。勿れ也。ひまげす。○袁登古コト。○袁登古ハ。古ハ袁登賣也。對
ふ称ゆく。下ふ訓壯夫云袁等古也見也。書紀アハ少男
此云烏等孤少ハ若。云。あや。あり。万葉みも壯士あやく書
て。若く壯ある男を云也。老ある若きを云。ば。男を以て
至。又於の假字ナ。御刀を其許又置賜。○袁登賣ハ。袁登古小對て。若く盛ある
を書も非あり。○袁登賣ハ。袁登古小對て。若く盛ある

袁道問者の袁あや皆同ド。此外も多し。○さて此二句
哉。凡唱和の御言を書紀アハ。惠哉遇可美少男焉。一
書アハ。妍哉可愛少男歟。一書アハ。美哉善少男也。書
此記也見合せ。右何生也阿那述惠夜愛袁登古袁也。
訓達シ。袁登賣袁の方も同ド。五言二句哉。乃御言ア
里。今本アナウレシヤウ。ニシトコニア。ヒ。又あや
リ。古。を知らぬ者の訓アリ。此ハ唱和ハ調もよく
て。奇の始也も考あるを。如此。ナラ。お訓。乃御言ふ
乃ハ。凡の言等。シテ。モ。遇字ハ。凡との御言の意
を得て。加ら。シ。とのあり。決て。讀。ナラ。鳥字。欽字ハ。末の袁小
當。也。此字は無。を以。知。ナラ。鳥字。欽字ハ。末の袁小
辭。也。も。語之餘也。也。も。乃。古。古今集序。此歌天地
乃開始。至。ける時。より。ひ。ま。ふ。き。り。古註。よ。天浮橋の

下。め。く。婦。神。夫。神。成。賜。る。残。云。る。歌。あり。是。ある。は。
此。の。唱。和。せ。し。御。言。を。云。ア。信。ふ。歌。の。始。み。ぞ。あり。ける。
又。師。ハ。如。此。詔。ひ。交。せ。る。は。い。上。代。の。交。合。の。初。乃。礼
あ。あ。唐。し。云。き。○。女。人。ハ。袁。美。那。袁。訓。達。シ。書。紀
これ。を。婦。人。が。書。き。し。る。を。タ。ヲ。ヤ。メ。シ。訓。達。シ。其。ハ。女。
の。弱。く。は。う。あ。が。方。を。云。シ。母。の。称。ア。ク。記。中。書。紀。万。葉。
あ。や。見。ル。多。く。其。意。ア。ル。所。ふ。云。ア。キ。手。弱。女。乃。あ。み。
サ。ハ。傳。ハ。の。三。葉。エ。云。ア。又。袁。登。賣。聖。云。も。上。ふ。云。る。如。
く。若。キ。セ。リ。ふ。称。ア。リ。記。中。所。ニ。女。人。聖。書。る。例。ア。ミ。ナ。
を。考。シ。何。も。多。袁。夜。賣。袁。登。賣。ア。シ。訓。ア。ハ。惡。シ。袁。美。那。
聖。い。す。る。は。明。官。段。又。朝。倉。官。段。ア。ヤ。の。大。御。歌。又。万。葉。
廿。卷。家。持。歌。ア。ヤ。見。有。ア。リ。これを。今。ヲ。ニ。ナ。セ。リ。ふ。
下。み。袁。を。添。て。讀。ハ。語。の。調。を。助。む。也。ア。リ。愛。袁。登。古。袁。

純袁フみ同じ。○先言ハ許登佐伎陀知豆コトサキタチ訓ハシし。上ヨリ阿アム字シテハ同ドきれテ。書紀ムカシも先言ヨリありて。然訓ハシ。万葉十卷ハルサレバニツナクヒスノコトサキタチ。春去者ハシ。先鳴鳥トリノウカヒスノコトサキタチ。鷺サギ之ハシ事ハシ先立之ハシ君乎ハシ之ハシ將待ハシタム事ハシ借字ハシ。春ハル阿アム。言ヨリ。古語アラビアあり。○不良ミヤシタ。この訓ハシ近ハシ海ハシマ小釣ハシマツ。海人アマノのうけハシマツ。福ハシマツ。思定ハシマツ。其ハシ種ハシ云ハシマツ。先ハシマツ。余ハシマツ。詞ハシマツ良受ハシマツ。其ハシ即字ハシマツ。隨ハシマツ。也ハシマツ。又ハシマツ聖武紀ハシマツ。宣命ハシマツ。天下君坐而年緒長久皇ハシマツ。后不坐事母ハシマツ。一豆乃善有良努行尔ハシマツ。在ハシマツ也ハシマツ。古語アラビア。少ハシマツ。也ハシマツ。又ハシマツ書紀ハシマツ。此ハシマツ。不祥ハシマツ。作生ハシマツ。私記ハシマツ。案ハシマツ古事記ハシマツ。余ハシマツ。詞ハシマツ良受ハシマツ。あれバ。昔ハシマツ。然訓ハシマツ。一ハシマツ。むハシマツ。垂

仁ハシマツ御卷ハシマツ。非良ハシマツ。也ハシマツ。又ハシマツ。一ハシマツ。佐ハシマツ賀那志ハシマツ。訓ハシ。書紀ハシマツ。不祥ハシマツ。然訓ハシマツ。惡字ハシマツ。然訓ハシマツ。又ハシマツ性ハシマツ。佐ハシマツ賀ハシマツ。訓ハシマツ。是ハシマツ古語ハシマツ。後ハシマツ哥ハシマツ。憂世ハシマツ。之ハシマツ。佐ハシマツ賀ハシマツ。云ハシマツ。是ハシマツ。ふハシマツ。くハシマツ。のハシマツ。是ハシマツ。其ハシマツ。元ハシマツ。うハシマツ。自然ハシマツ。ふハシマツ然ハシマツ。有ハシマツ。云ハシマツ。言ハシマツ。佐ハシマツ賀那伎ハシマツ。其ハシマツ。反ハシマツ。也ハシマツ。自然ハシマツ。有ハシマツ。背ハシマツ。家ハシマツ。違ハシマツ。云ハシマツ。是ハシマツ。古語ハシマツ。見ハシマツ。後ハシマツ。物語ハシマツ。云ハシマツ。多ハシマツ。後ハシマツ。人ハシマツ。惡ハシマツ。云ハシマツ。言ハシマツ。多ハシマツ。後ハシマツ。祥ハシマツ。佐ハシマツ賀ハシマツ。訓ハシマツ。用ハシマツ。樣ハシマツ。移ハシマツ。也ハシマツ。又ハシマツ。夢ハシマツ。祥ハシマツ。不祥ハシマツ。佐ハシマツ賀那志ハシマツ。訓ハシマツ。其ハシマツ。反ハシマツ。也ハシマツ。心得ハシマツ。有ハシマツ。後ハシマツ。人ハシマツ。乃ハシマツ。之ハシマツ。不祥ハシマツ。佐ハシマツ賀那志ハシマツ。云ハシマツ。小叶ハシマツ。多ハシマツ。祥ハシマツ。是ハシマツ。ゆハシマツ。性ハシマツ。善ハシマツ。乃ハシマツ。意ハシマツ。叶ハシマツ。多ハシマツ。漢ハシマツ。心ハシマツ。古ハシマツ。乃ハシマツ。意ハシマツ。小叶ハシマツ。元ハシマツ。同ハシマツ。字ハシマツ。用ハシマツ。ひ。づ。古ハシマツ。從ハシマツ。此ハシマツ。方ハシマツ。言ハシマツ。か。ほ。を。書ハシマツ。紀ハシマツ。乃ハシマツ。訓ハシマツ。そ。の。別ハシマツ。あ。く。同ハシマツ。字ハシマツ。小。だ。よ。乃ハシマツ

生バ。此も彼も同ド言小訓て。語ハ古語ナリ。其所叶はぬ多し。後世尔ありては。その本末用ひざ西を知るバ。何せう正しく。何をうむか。かくして不良也。えわまことね。後宮も多くあらり。かくして不良を佐賀那志サガナシ訓サガナシ。書紀ヒトウタタコトサガナシ。其大國客等聞之亦不良。立生人是不良。推古御卷サガナシ。夫君王陵墓埋立サガナシ。又一ツハ。布佐波受サガナシも訓サガナシ。其ハ八千矛、神の御歌サガナシ。云々許礼波布佐波受サガナシ。云々許母布佐波受サガナシ。云々許斯與呂志サガナシ。云々宜一ヨロかカ。云サガナシ。云サガナシ。彼御哥サガナシ考サガナシて知サガナシ。傳サガナシ十一十三七ヨロ。小委サガナシ云サガナシ。又源氏物語サガナシ。布佐波志加良受サガナシ。兼サガナシ云サガナシ。中サガナシ花宴サガナシ。卷サガナシ見サガナシ。河サガナシ

海抄の釋み。不祥日本紀ヒトウタタコト。かくればうの書紀乃不祥也。然訓る本昔ヒトキ有リ。見ル。ちて彼物語の布佐波志加良受サガナシ。心サガナシかカ。ぬサガナシ。云ル。彼御歌サガナシ。又サガナシ。同ド意サガナシ。又サガナシ。今サガナシ世サガナシの語サガナシ。物サガナシ。乃サガナシ人サガナシ。合サガナシ。應サガナシ。幸サガナシ。云ル。是サガナシ又サガナシ不祥サガナシ。意サガナシ。又サガナシ。合サガナシ。巴サガナシ。かカ。乃サガナシ河サガナシ。海サガナシ。抄サガナシ。小等理サガナシ。我サガナシ。奈サガナシ。久サガナシ。安サガナシ。豆サガナシ。麻サガナシ。乎サガナシ。よサガナシ。佐サガナシ之サガナシ天サガナシ。布サガナシ佐サガナシ之サガナシ。尔サガナシ。由サガナシ。可サガナシ。年サガナシ。登サガナシ。於サガナシ毛サガナシ倍サガナシ。騰サガナシ。興サガナシ。之サガナシ母サガナシ。佐サガナシ。称サガナシ。奈サガナシ。之サガナシ。師サガナシ。說サガナシ。布サガナシ佐サガナシ倍サガナシ。云ル。布サガナシ佐サガナシ波サガナシ勢サガナシ。約サガナシ。活サガナシ。言ル。右サガナシ。三サガナシ。をサガナシ。あサガナシ。ばサガナシ。今サガナシ。一度サガナシ。考サガナシ。あサガナシ。布サガナシ佐サガナシ波サガナシ受サガナシ。訓サガナシ。ま。アリ。て。聞ル。アリ。此。詔。書。紀。陽。神。不。悅。曰。吾。是。男子。理。當。先。唱。如。何。婦。人。反。先。言。乎。事。既。不。祥。宜。以。改。旋。

空あり。○告ハ能理多麻比伎リタニヒキ訓ハシし。此字記中ハシ多
く詔字ハシ通ハシて書ハシ。凡て古ハシハ多くは能流ハシ訓ハシ
あり。万葉あハシても。多くハ能流ハシ用ハシ。然ハシるを
古語ハシ昧ハシして。都具ハシ也。○雖然ハ斯加礼杼母ハシ訓ハシし。
訓誤ハシ處ハシ乃ハシ多ハシし。○久美度ハシ所
此語万葉ハシも多く有ハシ。假字ハシも之可ハシ。所
所十五ハシの五丁。十六ハシの十四丁。み見布ハシ。○久美度ハシ
夫婦ハシ隱ハシ寝ハシ處ハシを云。物語文ハシ。貴人ハシの寢ハシ。大殿ハシ隱ハシ也。久美
は許母理ハシの約ハシ言ハシ。師ハシ說ハシ。既ハシ小
豊雲野神トヨクモヌノ乃トヨ下ハシ也。傳三ハシ世五葉。朝倉宮段ハシの大御歌ハシ。
伊久美陀氣イクミタキ伊久美波泥受イクミタケニタク多斯美陀氣ミタケニタク多斯爾波韋泥ミタケニタク

訓ハシダガコ此ハ女男交合レバ御子を如此言る有り。須佐之男命の段有も其櫛名田比賣以久美度迹起而所生神名謂八嶋士怒美神也。此を書紀アハ於奇御戸為起而生兒云々書記アリ。凡て書紀ハ勤て漢文間アハ其格ふ違て此方の上古ノ物書格あるちせもあさ小所アリ。其ハ古記より隨小書もあるやうに見えアリ。今此為起アリ為字の用格も漢文の方小取てハ甚物遠。是も古記のみ許志アリ當て書るを。其隨見アリ。古書アハ為起アリ類此記アリ。亦多々。奇御戸も借字アリ。古書アカタジケアリ。アリ。アリ。交合此アリを如ヒシ云る語のころロハ先元て事の始まりを起アリセヒ始もアリ起ヒシ云。されば此ハ御子を生アリ事。久美度アリて始光賜

ふ謂あり。女男交合アリハ子を生タニ。久美度アリ。故此言は。アリ。御子を生坐アリ。端アリ。云て。アリ。ふ交合アリ。云て。アリ。云る例アリ。心を却けて辨法シ。久美度アリ。て其事を始て。御子を生坐アリ。云むが如し。書紀一書少陰神先唱曰云云。便握陽神之手。遂為夫婦。生淡路洲次蛭兒アリ。は異ある傳アリ。又一書少ハ。遂將合交而不知其術。時有鶴鵠飛來。搖其首尾。二神見而學之。即得交道也。有り。○水蛭子ハ。上代。水蛭。似。兒。称。あり。子を濁て。此御子の名。心得るハシダガアリ。而て讀法。アリ。此御子の名。心得るハシダガアリ。而て彼虫。小似。アリ。如。此云。小就て。ニ。の意。アリ。其ハ

手足あざも魚て見る形乃似カタナ也云う。又書紀小雖
已三歳脚猶不立トセニチリヌレドアシタザリキ。ふ依ヨラバ。手足あざも魚れトモ。弱
て凡て萎ナエく。あるが似ある哉云ハシマシ。有ル渟ヒメし。水蛭ヒメ
和名抄アマガシ。本草云。水蛭和名比ヒメ流ル也。契冲云。蛭ヒメハ。痺ヒメ
けあす。此御子の生坐アレる。書紀の傳カタナハ甚イタクく異ミふ
ふ。アス夫アシラ。先淡路鳴アシラ。次アシラ。蛭兒ヒメコ。天慶アシラ
月アシラ。神の生坐アレる。次アシラ。遙ハガ。後アシラ。初アシラ。終アシラ。
ふニアシラの蛭兒ヒメコを生坐アレや云ハシマシ。此記アシラ。書紀アシラ。一書アシラ
傳アシラ。合アシラせく記アシラ。例アシラ。かアシラ。そアシラ。一アシラ。一書アシラ
此記アシラ。同じ。又一書アシラ。先淡路鳴アシラ。次アシラ。蛭兒ヒメコ。天慶アシラ
日本紀竟宴アシラ。得伊獎諾アシラ。尊アシラ。大江アシラ。朝綱アシラ。奇アシラ。賀曾アシラ。伊呂婆アシラ。
禮度アシラ。美須夜アシラ。毘留能アシラ。古婆アシラ。美斗勢アシラ。尔那理奴アシラ。阿枳多アシラ。伊婆アシラ。
須志アシラ。志天アシラ。
○葦船ハ阿斯夫渥アシラ。訓アシラ。凡て某船アシラ。云アシラ。例アシラ。み能アシラ。空アシラ。阿斯能アシラ。

はアシラ。讀アシラ。此船を書紀纂疏アシラ。以葦アシラ。一葉アシラ。為船アシラ。也アシラ。あり。
アモ有アシラ。アモ。又葦アシラ。多く集アツメて。かアシラ。み作アツメる。あても
あアシラ。活アシラ。かの無間堅間アシラ。ノアシラ。小船アシラ。あざも思ひ合アシラ。活アシラ。書
紀本書アシラ。おは載アシラ。之於天磐檣櫓アシラ。而順風放棄アシラ。あり。和
名抄アシラ。舟船和名布祢アシラ。あり。アモ此御子アシラ。如アシラ此流去アシラ
賜アシラ。は。アモ水蛭子アシラ。あるゆ名アシラ。小惡アシラ。て棄アシラ。アモ
あり。○淡嶋アシラ。前アシラ。引アシラ。高津宮段アシラ。の大御歌アシラ。阿波
志摩アシラ。ある嵐アシラ。あり。又万葉三卷アシラ。武庫浦アシラ。榜轉小舟アシラ
粟鳴アシラ。背爾見乍アシラ。乏小舟アシラ。又四十六丁アシラ。舟比笠麻呂筑アシラ。
淡路乎過粟鳴乎背爾見管アシラ。又七十九小粟鳴尔許アシラ。

枳將渡等思鞆赤石門浪未佐和來亦も見ゆ。今
尔依よ淡路の西北乃方み在嶋や見ゆ。仙覺抄小
讀岐國屋嶋北去百步許有嶋名曰阿波嶋やあり。あ
よくあがぬぼし九卷十三小粟小嶋やよ第も。これ
那のぼし十五卷奇ふ安波之麻室より。二首あれど。
其ハ別あく周防乃海小有うて聞ゆ。又書紀
ふいぐすせるや有ハ風土記よ依ふ。伯耆國相見郡ふ
在あり。又出雲風土記よ彼國乃意宇郡あるも粟嶋ゆり。
すく此地淡嶋を志摩國紀國あざ云も東乃安房國ふ
歌又万葉乃哥アカウメリレミアカ公父云也皆誤あり。又阿波能志摩アカウメリレミアカ公父訓も悪。彼大御
云也。阿波志摩アカウメリレミアカ公父讀アカウメリレミアカ公父明うきし。
よて此嶋ハ今吾所生之子不良。次段アカウメリレミアカ公父詔アカウメリレミアカ公父以思
ふ源氏物語昂木卷小凡彈アカウメリレミアカ公父云む方あアカウメリレミアカ公父以思
ふ源氏物語昂木卷小凡彈アカウメリレミアカ公父云む方あアカウメリレミアカ公父以思

を阿波米惡て少し宜一かアカウメリレミアカ公父申せ。責賜アカウメリレミアカ公父
や云。阿波米アカウメリレミアカ公父詞。あす明石、巻處女、巻角總、巻宿木
も。あハシアカウメリレミアカ公父も見え。みハシアカウメリレミアカ公父也。活用く言ふ。その阿波米惡アカウメリレミアカ公父河海抄小淡惡アカウメリレミアカ公父
釋アカウメリレミアカ公父。後乃註よ。拒あり。云々。又波アカウメリレミアカ公父。其意アカウメリレミアカ公父御親神
乃淡免惡アカウメリレミアカ公父。後乃註よ。傳アカウメリレミアカ公父。書紀小
先以淡路洲エトフサハズオモホニケルユエ為胞意所不快故名之曰淡路洲トナミイダ。傳アカウメリレミアカ公父。舊事記
此淡嶋之名の似アカウメリレミアカ公父。すがひか。傳アカウメリレミアカ公父。古ノ意アカウメリレミアカ公父。乃意アカウメリレミアカ公父。似アカウメリレミアカ公父。古ノ意アカウメリレミアカ公父。是亦不入
子之例カズニハイレズ。不入は。伊良受アカウメリレミアカ公父。訓アカウメリレミアカ公父。かの水蛭子アカウメリレミアカ公父。流去アカウメリレミアカ公父。賜アカウメリレミアカ公父
乎。本より御子の數アカウメリレミアカ公父。入アカウメリレミアカ公父。條アカウメリレミアカ公父。知アカウメリレミアカ公父。故淡嶋

を是亦云。許礼母を。許母云ハ古言あり。テ乞例、
字ハ詞受訓。書紀より此亦不以充兒數。あるふ
依坐り。此例字を師ハ列字の誤。云云。又雄畧紀
例。や。例も。列乃誤。云。然坐者。又雄畧紀
小莫預群臣之例。天武紀より入不赦之例。入官
治之例。ある。例ハ誤。ハ非也。是等を御子れ數ふ
ば。此あるも。清多。純類。是。是等を御子れ數ふ
入ぬは。不良。淡免惡み賜。故あり。

於是二柱神議云。今吾所生之
子不良。猶宜白天神之御所。即

共參上。請天神之命。爾天神之
命。以布斗麻邇爾。上。此五ト相
而詔之。因女先言而不良。亦還
降改言。

天神ハ。上件ふ。天神諸々。あり。同く。初の五柱。天神
あり。○御所ハ。美母刀。訓。白ハ。何事も。麻表須。

訓達し。高津宮殿の哥小母能麻袁須。朝倉宮殿の大御哥尔意富麻幣尔麻袁須。此外万葉あざみも多く然あり。万葉ふ麻宇須。字もあれど。云は平を字ふ。字写ふ。字云ハ。音便ふ類ある。○参上ハ麻韋能煩理豆。訓達し。凡て参を古ハ麻韋望云至。参入を麻韋傳。参来を麻韋久。望云類あり。此麻韋は誤あり。参出を麻韋伊。望云約。豆。後世乃假字尔麻伊。望云書能煩琉。望云類あり。みふ例乃音便小類きある。○請天神之命。望云類あり。參出を詣。望云ひ。参上減も麻宇能煩琉。望云類あり。みふ例乃音便小類きある。○請天神之命。望云。上件の状を云。望天神小白賜て。書紀小具奏。其狀。是如何ある。故ぞ。あす如何志侍む。同ひて。其詔賜ふ命を請あす。抑萬の事ふい。う

も已オが私タダレ用ひばく。唯天神の命乃隨ハニ小行ひ賜ふ。也ハ道乃大義オモキコトワリあり。此二柱大神ハニ猶如カ此至ケルモ乃シ。况て後世の凡人タビトモチ。努已ヌメオノが私心ワタシシテモチ。而莫ナセ為ス。○天神之命以ハ。上ツみ天ツ神諸命以ハ。望云同語シテ。仰アマツシテ云ハシマツシテ。云ハシマツシテ。云ハシマツシテ。○布斗麻迹ハ。玉垣モカヒニコトモチ。宮御段ノミタリ。布斗摩迹ハ。占相而望云ハシマツシテ。云ハシマツシテ。云ハシマツシテ。書紀小太占シテ。云布刀麻ハ。又天兒屋ハ。命主ミタニ神事之宗源者也。故ラ。俾以太占之ト事ハ。而奉仕ハシマツシテ。烏カニ。布刀詔戸ハシマツシテ。布刀玉ハシマツシテ。布刀ハシマツシテ。称辭コトハシマツシテ。麻迹ハ。如何イカある意モチ。未思ひ得タダ。書紀乃占字ハ。唯其事ハシマツシテ。小當アテ。書キ。賜ム。物ハシマツシテ。正ハシマツシテ。麻迹ハ。占ハシマツシテ。云ハシマツシテ。

あはり。凡て書紀乃文字ハ。語ふ中ら存也。意を得
て書るが多きあり。又かく文あるハ。トヤ占也別あれ
也。此方ふは通じ用て別なし。然ふを字
み就く差別を云説ハ。甚しきがちやあり。そもそも布斗麻
迹ハ。上代の一種のトホク。諸トの中ふ殊よ重く。主也
せしト也聞えあり。下ホルハ辞あり。○註の上字ハ。上
声を附するあり。○ト相而ハ宇良用且也訓達し。万葉
十四 丁 ふ武藏野尔宇良敝可多也伎也ひり。宇良用は
宇良阿閑あく。阿を省く例常多し。殊よ是ハ。その阿閑
は。令合乃約也あるなり。例ハ朝倉宮殿の大御晝み。麻
那婆志良袁由岐阿閑尾行合せめり。嘗てゐるこれあり。猶此格
は。従ひ易て残從すて。違りせても違はず。集りせてを

言多し。皆同ド意あり。さて右乃宇良布^{ウラブ}宇良那^{ウラナ}布^{ウラブ}事ハ同ドかれ也。言乃本ハ別あり。思ひ混^{ウカ}多^{タカ}ば^カ。此も宇良那^{ウラナ}比豆^{ヒトテ}也訓むも悪か^{アシカ}也。相^{ウカ}字を加^スへある。阿閑^{アカネ}乃意あり。右乃万葉の占相の相ハ。同ド借字の中^{ウカ}ふも殊^{ハシマ}よ輕く用ひゆる物^{ウカ}。彼集乃常あり。此乃相^{ウカ}字ハ。借字^{アゲル}阿閑^{アカネ}の意を取て書^シ。彼^{ウカ}少く異^{ハシマ}あり。又僧尼令^ムト^ニ相^ス吉凶^{ウカ}。有^リは義解^ミ灼^{ヨロシ}龜^{カニ}。曰^レト^ト視^レ地^ヲ。曰^レ相^{ウカ}有^リ。云^ハの意異^{ハシマ}あり。さて又ト^ニ食^ム。兆^{カヌ}云^ハ。此方^{ウカ}あも此^{ウカ}食^ム字を借^テ書^ク。猶此^{ウカ}食^ム字乃ち^{カニ}は云^ハ。是^ヲト^ニ食^ム。論^{アシメ}に^テ事^ヲ解^{カシメ}。垂仁段^{スル}云^ハ。宇良阿布^{ウラブ}云^ハ。漢文^ヲ是^ヲト^ニ食^ム。合^{ハシメ}に^テ事^ヲ解^{カシメ}。上乃宇良布^{ウラブ}ハ。此方^{ウカ}より合^{ハシメ}あり。此令^ス合^{ハシメ}。合^{ハシメ}の別^ヲよ^ク辨^チ。下乃其^ノ宇良阿布^{ウラブ}又食^ト。古書ト食^トの別^ヲ。凡^ト此^ト多^シ言^乃活^キ用^多く。古書乃^ハ訓^{アゲル}。是^ヲ誤^ミ。此ト^モ多^シ言^乃活^キ用^多く。故^ニ見^ム。人^ノま^ニきか^ク。むも思^ハ。長^カく^テり^フ。抑中^{ゴロ}よト相^{ウカ}の様^ハ。天石屋の段^{傳^ハ一葉^{カムワサ}}。云^ハ。ト^ハあ^リ神事^ヲ。乃^ハ用^{アリ}。萬事^ヲ漢^カ様^ムト^ハあ^リ。

神ミツガ々ミツガ. 上代オノダケアハ. 萬ミツサの政オノシテノモ. 已オがミツカルミツカ所ミツカ用ミツカ也.
定ミツカ色ミツカがミツカアタミツカキミツカ皆ミツカトミツカて. 神ミツカの御教ミツカを受ミツカて. 行ミツカひミツカ賜ミツカ也. 記中書紀其外ミツカも多ミツカく見ミツカ有ミツカアリ. 今天ミツカ神ミツカ如ミツカ此ミツカくあるミツカ也. 柳野ミツカ神ミツカのトミツカ向ミツカハ. 天ミツカ神ミツカ乃ミツカ御教ミツカを受ミツカ賜ミツカ神ミツカのトミツカ賜ミツカ事ミツカハ. 何ミツカ神ミツカ乃ミツカ御教ミツカを受ミツカ賜ミツカ事ミツカハ. 其ミツカハ漢籍ミツカ意ミツカみく. 古ミツカ乃ミツカ意ミツカば. 疑事ミツカ人ミツカも彼ミツカみ此ミツカみいはぐ. 神代ミツカ乃ミツカ事ミツカハ皆ミツカづ. 疑ミツカハ. 中ミツカ心ミツカをも. 有ミツカるミツカちう. 在ミツカ心ミツカをも. で. あ書紀ミツカアハ. 天神ミツカの御所ミツカだ古ミツカ乃ミツカ傳ミツカ也. すくふ見ミツカ傳ミツカあり. 曹ミツカ上ミツカて. 大命ミツカを承ミツカあるミツカ事ミツカあし. 直ミツカみ即ミツカ改ミツカ旋ミツカみす穿ミツカ里ミツカ. 一書ミツカ此事ミツカあり. ○ 因女先言而不良ミツカ上ミツカみ伊邪那岐ミツカ命ミツカ乃ミツカ女人先言不良ミツカ詔ミツカす. 女の言先ミツカそミツカせ宜ミツカら

奴あるを。此ハ生賜する御子也。宜かく姫を指て詔ふ
あれバ。因^{ヨリテ}以^テ辨ふ法し同語あづく指事異あり。思ひ混ふ
法か^ハ。書紀の此記乃趣也。如くある一書ふ。上乃伊
至^{カシム}天神云^{カタマリ}教曰。婦人之辭^{アラタメイ}。○改言ハ阿良多米伊
其^{ナキ}己先揚乎^{カタマリ}更還去^{ラタマリ}也。○改言ハ阿良多米伊
幣^{ヒメ}訓^{ハシメ}。俗言ふいひあす。不祥御子を生坐るハ。毛
は^ハかの唱和乃次第の乱^{ミダレ}小因^{ヨリ}てあれバ。御言の罪あ
リ。故如^{レカク}此詔可^ムなり。言^{ハシメ}る心を著^{ツク}し。上を
ふ亦ハ。又再の意^{スル}。言^{ハシメ}る心を著^{ツク}し。上を
ふ乃趣を取總て。ちよ委曲ふ云む^リハ。ま^サ初^{タマ}ふ二柱、
神天之御柱を行廻^{ミタマ}。一時^{ヨリ}女神乃言先^{トサキ}賜ひ

一ハ。女男の理^{コトブリ}小背ける故^シ。男神惡^{ミテ}て。不良^ヤ詔
すり。女男の理^{ヤハ}。そのうみ宇比地^{ヒヂニ}。神須比地^{ヒヂニ}。神
より始て。次^ニ女男並坐^{ヒス}神。皆男神先成坐て。女神ハ次
尔成坐^セ。是^{レカ}天地乃始^メ。より。女ハ男小後^{オク}坐^ス。従ふ法^シ
理^{シテ}。今ふ至るまで。汝の如^ク然^{アリ}。こうは甚^{イトク}
深き故^ハ。ちよ然^{アリ}。汝の得^{ハシメ}。人の知^ル。汝^ハ
はあ^ハ。然^{アリ}。其故^ハ。惡^ミき御子生^シ。坐^シ。良^ヤ。ハ。あも
ナ^ハ。も懸^{カケ}。即^{ヤガテ}御合坐^シ。水蛭子^{ウミヘビ}。淡鳴^{アハシニ}。生^シ
き。此御子御心^シ叶^ハ。ざり。故^ハ。惡^ミ。不^良。詔^シ

上. 上の不^{サハズ}良ハ. 女神乃先^{コトサキダチ}言^{アマヒ}一^ハ此^モ惡^{ミク}詔^ヒひ. 此^モ
不^{サハズ}良ハ. 御子乃惡^{ミク}を詔^{アムアム}本^{ヨリ}異事^{アリ}. 言
乃同^ドよふ依て. あれぞ是ハ彼^コ女神乃先^{コトサキダチ}言^{アマヒ}し
思^ヒ混^{タガ}多^カ考^ル也. されど是ハ彼^コ女神乃先^{コトサキダチ}言^{アマヒ}し
故^モ如^{カク}此^モ生^{ウニ}ては. 猶得^{ナホ}予^ホり賜^{ハシメ}り^カ之^モ
ふ. 天^ツ神乃御許^{ミモト}み參^{ミキギリ}上^テて. 其^サ狀^モを申^シし^{アマヒ}. 不^{サハズ}良子也
生^{ウニ}か^ハは. 如^{イカ}何^モある故^モう. 亦^モ如^{イカ}何^モ為^シて吉^ヨか^シも
命^{ミコト}を請^{コロ}賜^ムるふ. 天^ツ神ノ^モも猶^{ナホ}. 御心^モハ定^シめ^タ賜^ハ
矣. 布斗麻^{トモ}迄^ニもト相^シみ^シひて^カ之^モ. 其^サ故^モハ志^{ハシメ}れ
ありける. 元^モて神^ノ御^{ミハ}上^ハ乃趣^ハ何^事も. 漢^{カラ}文^{ブミ}乃佛聖人
漢^{カラ}意^{アム}ある. 賢^{サカニラ}人^モうち乃說^ハ不^{サハズ}良子^コ生^{ウミ}説^ハ賢^{サカニラ}人^モうち乃說^ハ女^{ミナ}先^{コトサキダチ}言^ルハ. 陰^{ヨハ}陽^{ヨハ}乃理^モ小^{カナ}
違^スる故^モ不^{サハズ}良子^コ生^{ウミ}賜^ハ一^ハあり^カ也. 事^モも^チげ^シ云^フ考^ル也. 首^モ卷^モ乃書紀^モ論^モ云^フ考^ル也. 云^フ考^ル也. 云^フ考^ル也.

を其を予身亦半敬みく天神ふ白一
バ其初又甚く不良云々知あう。即御合坐ふハ又
いりうぢ也重く敬む様き云々をバ敬うて。云々も又
散らぬ云々を敬みあおふ云々ある様くもあうば。近代神道者云々あせぐ一
とのく漫小敬せりか云々を道乃旨せりひまく
乃儒小詣する私言あり。又或人の説ふ。其初
ちりあぐ御合坐ふハ御過あり。それや其初
改免あするぞ。大神ノハ坐ける。云々をハ称ナ
セ云も。亦儒書ふ云々云々なり。

葛城真純所持本



